

平成29年度 学校評価書

山形県立鶴岡南高等学校

達成度

A：目標をはるか大きく超えている。 B：目標を超えている。 C：目標を概ね超えている。 D：目標を下回っている。 E：目標達成に遠く及ばない。

領域	重点目標	達成度	成果(○)と課題(●)	学校関係者評価委員の評価・意見・要望
教務課	SSHとしての教育課程の円滑な運用に努める。特に、研究開発校として新しい学校設定科目における教材開発や評価を支援する。	C	○●教育課程はトラブル無く運用されている。SSHの継続により、学校設定科目を新設。今までの内容を発展的に改良した。 ○●「生徒にメリハリのある生活を送らせ」「帰宅後の学習時間を確保する」ための下校時間徹底は概ね守られている。これを家庭学習時間増加に繋げることが課題。 ○年3回の研究授業期間、早期のシラバス発行など授業改善の取組みは定着している。 ○●教務規定の見直しを計る取組みは行っているが、見直しは今のところ不確定である。	C ・SSHが生徒一人一人にとって、特性を活かした活動になることを期待します。 ・鶴南ゼミの内容も発表も年々向上しています。素晴らしいです。
	学年団や各教科担当・部活動顧問と協力して、生徒にメリハリのある生活を送らせながら、家庭学習時間を充実させるための具体的な方策を実施する。	C		
	成績処理システム・指導要録電子化・入選処理システム等について、安定運用のための改善を進める。	C		
	授業改善のために校内研究授業・授業評価・シラバス等の活用を図る。	C		
	教務内規等の業務の見直しを行い、改善の必要性の高い業務に重点的に取り組む。	D		
進路課	早期の進路希望確立を目的として、1,2学年のうちから大学オープンキャンパスへの参加を積極的に勧める。特に、本校生の希望の多い大学については、年1回以上引率を伴う見学会を実施する。	C	○センター試験では、総合で県内2位、上位層も多く健闘してくれた。国公立の推薦でも11名(東北3名、山形4名、千葉2名、新潟1名、国際教養1名)合格出来た。 ○キャリア教育の一環として、アカデミックインターンシップでは1,3年生対象に地元企業20社から企業説明受け、東北公益大学の平尾先生から起業家精神を学ぶことができた。	B ・上位層の数が目立つので、高校としては目標をそこに掲げることが理解できるが、生徒の希望の達成率のような指標も今後検討してほしい。 ・鶴南ゼミの成果が進路結果に反映していると思います。 ・キャリア教育は生徒達が目指す将来像を描く良い取り組みである。
	キャリア教育の視点に立ち、職業観の育成や将来専攻する学問分野の決定を目的として、社会人や大学教員を招いての講演会や模擬授業を年2回以上実施する。	B		
	超難関大学・医学部医学科10名以上、難関大学20名以上、国公立大学140名以上の合格達成に向けて取り組む。	C		
	SSH事業、進学指導重点校学力向上推進事業を効果的に進路指導に活用する。	C		
生徒課	日頃からの生徒指導をとおり、“問題行動0、交通事故0、いじめ発生0”を目指す。	D	●SNSの使用における特別指導を1件実施した。SNSの利用については重ねて注意喚起が必要。 ○除雪ボランティアを学年や部活動単位で実施した。 ○アーチェリー部、弓道部、陸上部、科学部、将棋(設置外活動)が全国大会に、東北大会にも多くの部が出場した。アーチェリー部は国体男子個人で優勝。	C ・文武両道でがんばっている中、SNSの特別指導は残念である。 ・SNSの危険性は、PTAと連携し、継続して注意喚起を行う必要がある。
	生徒会行事において、全校生徒の8割以上が達成感をもてる内容を目指す。	C		
	ロングホームルーム活動計画に「自他の生命の尊重」「心の豊かさ」等の心の育成につながる内容またはボランティア的な企画を、年間1回以上組み込む。	C		
	部活動において全国大会へ団体3種目以上、個人5名以上の出場を目指す。	B		

達成度

A：目標をはるか大きく超えている。 B：目標を超えている。 C：目標を概ね超えている。 D：目標を下回っている。 E：目標達成に遠く及ばない。

領域	重点目標	達成度	成果(○)と課題(●)	学校関係者評価委員の評価・意見・要望
総務課	「PTAの日」をはじめとするPTA独自事業に、より多くの参加が得られるような工夫を行う。また、PTA役員とのより良い連携のあり方を研究する。	C	○「PTAの日」の参加者が393名(66.1%)で目標の6割を達成できた。また、保護者による朝のあいさつ運動などで成果をあげた。○災害時の連絡体制を「マメール」という民間企業に委託し、順調に運用されている。○保護者アンケートは8割以上回収できた。また、保護者からの自由記述による要望に、学年便りを通じて、直ちに回答した。 ○校内倫理委員会を2回開催し、倫理観・規範意識の涵養や資質の向上に努めた。	C ・保護者への情報提供手段として、マメールを積極的に活用できないでしょうか。
	防災マニュアルの定着をはかり、より実効性のある危機管理体制の構築を目指す。緊急時における職員間及び生徒・保護者との連絡体制については、業者委託を継続し、未登録者の減少に努める。年2回の防災訓練により生徒教職員の危機管理意識の向上を図る。	C		
	学校評価のあり方(実施時期、分析方法、活用方法など)を検討し、8割以上の回収率を目指すとともに、校内反省会とのより効果的な連携のあり方を研究する。	C		
	年2回の校内倫理委員会を通じて教職員の倫理観・規範意識の涵養をはかる。	C		
保健課	清掃活動を徹底し、学習環境を整える。特に、行事の後や夏季休業中は、特に分担区を指定し、校舎内の美化に努める。	C	○行事の後や夏季休業中の特別分担区清掃・通常清掃全般について清掃を徹底し、校舎内の美化に努めた。○保健便りを隔月発行し、各時期に合わせた健康管理のための情報を適切に提供することができた。○スクールカウンセラー・特別支援コーディネータ・学年・家庭との連携を図り、適切な支援に努めた。○冬季講習中にインフルエンザ感染拡大が懸念された学年について、学校医との連携をとりつつ、2日間の自宅待機という措置をとり、感染拡大の防止に努めた。	C ・全国的にインフルエンザが猛威をふるう中、拡大を防げたのは良かった。
	「保健だより」を隔月発行し、生徒に健康情報を提供する。	C		
	MC委員会を適宜開催し、メンタルヘルスケアに努めるとともに、学校カウンセラーや教科・学年担任団・家庭との連携を図り、該当生徒に適切に対応できるようにする。	C		
	感染症拡大防止のため、必要な情報や対策を教職員や生徒に提供する。	C		
	産業医との連携を強化し、職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に努める。	C		
図書情報課	SSH・鶴南ゼミにおける図書・視聴覚教材・教具の効果的な活用を研究し、環境を整備する。	C	○夏の読書感想文・小論文の応募は良好であった。 ○授業での図書館利用が増加したが、貸出冊数は減少した。 ○HPをリニューアルして情報発信は強化している。 ○GWの閲覧はほぼ全職員が毎日目を通しており、各種の連絡事項の情報を共有している。 ○Officeサポート終了に伴う作業は厳しい日程の中行った。 ○LL教室内の消耗品代を学年に負担してもらった。 ●iPad等の機器の故障破損の修理を速やかに実施する。 ●教員のデータの保存や発信に関して、モラルを継続する。	C
	図書館の利用促進及び読書指導の研究を行い、本校の特性にあった運営を図る。	C		
	読書、図書館利用の習慣化を図るため、「LHR読書の時間」や「コンテストへの応募」などを実施する。	C		
	鶴岡南高校の情報セキュリティポリシーの周知と啓蒙を行う。	C		
	学校ホームページの更新をより活発にし、SSHなどの活動を積極的に発信する。	C		
	グループウェアの使い方・デザインなどを研究し、職員相互の情報共有を図る。	C		
事務部	校内における事故防止のため、保健課との連携を図る。年8回以上の合同安全点検を実施する。	C	○毎月安全点検を実施し、問題箇所については速やかに対応し、施設・設備の保全と安全の確保に努めた。 ○使用量は光熱水関係が概ね前年度並み、電力はマイナス2%程度。用紙類の使用量が大幅に増加しており、用紙使用量の削減徹底が課題となっている。	C
	光熱水・用紙類の使用量は、対前年度使用量の維持に努める。特に、電力使用量については前年度比マイナス3%を目標とする。	D		

達成度

A：目標をはるか大きく超えている。 B：目標を超えている。 C：目標を概ね超えている。 D：目標を下回っている。 E：目標達成に遠く及ばない。

領域	重点目標	達成度	成果(○)と課題(●)	学校関係者評価委員の評価・意見・要望
1 学年	SSHの趣旨に沿い、「鶴南ゼミ基礎」への興味関心を高めるとともに、「探究的な学び」へ意欲的に取り組む態度を育成する。	B	○「ゼミ基礎」では生徒が意欲的に取り組む様子が窺えた。 ●出席率99%以上を目指したが、2学期に部活での怪我、体調を崩す等であと一步及ばなかった。 ●SNSを介したトラブルが複数発生した。継続して指導をしていかなければならない。また、スマホの使用時間の自己管理ができず、目標とする学習時間の確保が困難になっている生徒がかなり見られる。 ○学年PTAの出席は50%を超える程度だったが、クラスPTAでは、保護者との連携が図られた。 ○11月進研の3科目の平均偏差値は59.3と目標には及ばなかったが、教科によっては目標に到達できた。	C ・スマホの適正な使い方について、あらためてPTAとともに指導が必要と思います。 ・生活リズムを整える等、家庭で出来る取り組みをPTAを通し涵養を図ることが必要と感じられる。
	出席率99%以上を目指す。	C		
	単位未修得、長期欠席、いじめ「0」を目指す。	D		
	学年PTAの出席率80%以上を目指す。	D		
	部活動加入率90%以上を目指す。	C		
	家庭学習時間が平均3時間となるよう指導する。	D		
	模擬試験における全体平均偏差値60以上を目指す。	C		
2 学年	鶴南ゼミで探求する力を高めるとともに、各発表会でその成果をプレゼンテーションできる力を養う。	C	○出席率も高く、良好な生活を送ることが出来た。 ○学年PTAの出席は50%を超える程度だったが、クラスPTAの出席率が高く、保護者との連携が図られた。 ○ボランティア活動にも意欲的に参加する生徒が多く、人を思いやる心を醸成できた。 ○外国からの訪問や建国中学との交流によって、人間的な成長が窺えた。 ●不登校生徒や精神的に不安定な生徒に対してのケアを行ったが、劇的な改善には至らなかった。	C
	進路研修(台湾)を通じて異文化理解を深め、英語でのプレゼン力を高めさせる。	B		
	全員が全ての単位を修得し進級させることを目指す。	D		
	心身を健全に育み、出席率99%以上を目指す。	B		
	学年PTA出席率70%以上、クラスPTAの出席率50%以上を目指す。	C		
	模擬試験における各教科の平均偏差値60以上を目指す。	D		
	積極的にボランティア活動を行い、全体に奉仕する意欲を	B		
3 学年	SSHの趣旨に沿い、個々の能力や技術を向上させ、進路実現を目指す。	C	○各ゼミでテーマ(仮説)設定⇒調査・研究・分析⇒発表の力が育成され、それを基礎力として進路実現に向けて準備をし成果を上げた生徒もいた。 ○欠課が多かった数名の生徒は後半には改善が見られた者もいたが、全員が全ての単位を習得して卒業認定までには、至らなかった。	C ・生徒、教職員、保護者が意思疎通を図り協力して取り組んでいると感じられる。
	全員が全ての単位を修得して卒業する。	C		
	進路実現に向けて主体的な学習を促し、学習の質(方法・徹底度)と量(4時間以上)の向上を目指す。	B		
	模擬試験における各教科科目の平均点偏差値60以上を目指す。	D		

	心身を健全に育み、出席率99%以上を目指す。	D	<p>○各自が学習の質と量を考えながら主体的に取り組み、模試やセンター試験等で成果を挙げた。</p> <p>○5教科総合で偏差値60を越える事は出来なかったが、年間を通じて国数英の教科バランスは良く、それに加えて数学の好成績がセンター試験での成果につながった。</p> <p>センター試験：総合平均点 599.8（前年 616.1）</p> <p>●年間の出席率は97.8%だった。学年PTA出席率は約60%だった</p>	
学年PTAの出席率75%以上を目指す。	C			